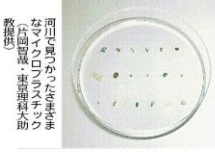


年 組 番
(名前)



河川9割に微小プラ



河川で見つかったさまざまなマイクロプラスチック
(片岡智哉・東京理科大学 教授)

河川9割に微小プラ 国内調査、都市部で多く

北海道から沖縄の29河川の調査で、9割に当たる26河川から微小なマイクロプラスチックが検出された。結果を、東京理科大学と慶応大学のチームが1日までにまとめた。住宅地や都市部の近くを流れる河川で多く見つかり、レジ袋や発泡スチロールの容器由来とみられるものが確認された。

チームによると、これまで国内の河川の調査はあまり進んでおらず、片岡智哉・東京理科大学(水工学)は「一人の影響が大きい河川でマイクロプラスチック汚染が進んでいることが判明した。海に流れ込んで汚染が広がっていると考えられ、プラスチックごみの適正処理や削減が重要だ」と指摘した。

水1立方分に含まれる数が最も多かったのは、千葉県の大堀川で11・9個だった。次いで神奈川県の大井川と熊本県の白川がそれぞれ4・9個だった。全地点の平均は1・6個だった。流域の人口密度が高く、水質が悪い河川で多く見つかる傾向にあった。

マイクロプラスチックは、プラスチック製品がごみとして川や海に流れ込んだり、壊れて細かくなったり、ものが多い。化学繊維のくずもある。世界各地の魚介類や塩、水道水からの検出が報告されているほか、日本からも見つかった。環境中の化学物質を吸着したり、鳥や魚への影響が懸念されている。

北海道の青間川、高知県の仁淀川、熊本県の球磨川からは検出されなかった。材質は、レジ袋などに使われるポリエチレン、ペットボトルのふたの材料になるポリプロピレン、発泡スチロールとして使われるポリスチレンが確認された。

マイクロプラスチックは世界の海で汚染が深刻化。生物がのみ込むことがあり、生態系への影響が懸念される。国内の河川では、環境ベンチャーによる調査で、人工芝の破片や、肥料を入れて農地にまく微小カプセルも見つかっている。

- ◎記事から読み取ろう
- 調査発表についてまとめよう。
 - ・調査した大学はどこですか。

(佐賀新聞 2018.11.2 付)

- ・いくつかの河川を調査対象としていますか。
- ・どのような方法で調べていますか。

○調査結果についてまとめよう。

・微小プラスチックが含まれる量が多い川をあげてみよう。

① 川(水1立方分中 _____ 個) ② 川(// _____ 個)

③ 川(// _____ 個) *全地点平均(水1立方分中 _____ 個)

・見つかった微小プラスチックはどんな材質でしたか。

広げよう・深めよう

○見つかった微小プラスチックから、どのようなことが考えられますか。

◎自分の考えをまとめよう *友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○今後の微小プラスチック対策としてどのようなことが必要だと思いますか。